

取中TM通信



1学期も残すところ1か月弱となりました。6月末から7月上旬にかけては、交流授業を実施するなど、本年度の研究主題である「コマで気づく(築く)『学びの深化(進化)』」に迫るために研修を重ねています。

『学びの深化(進化)』とは？

研究を進めるにあたって、研究主題にある『学びの深化(進化)』とは何かについて、学力向上委員会で検討しました。会議では、『学びの深化(進化)』という言葉の意味はもちろん理解しているが、抽象的すぎてイメージしにくいという意見が出ました。そこで、生徒にとっても教師にとっても分かりやすく、より明確なゴールを設定することとし、取石中学校として、『学びの深化(進化)』を「生徒が自分の学びを(で)説明できる」と定義づけました。

『学びの深化(進化)』への道 【究極のゴール：学びの深化(知識の転移・応用)】

ステージ②：『学んだことで説明できる』

- ・知識を「道具(レンズ)」として使う
- ・未知の課題や、日常生活の事象を解き明かす
- ・思考ツール：自ら選択し、問題解決の武器にする

深まりの壁



★思考ツールの自立化・見方考え方の働かせ所

ステージ①：『学んだことを説明できる』

- ・知識を「構造(つながり)」として捉える
- ・自分の言葉で、概念の本質をアウトプットできる
- ・思考ツール：情報を分類・関係付け、可視化する



【授業の工夫】★思考ツールの導入・対話による揺さぶり



スタート：『バラバラの知識(点)』

- ・簡単な事実、用語、記憶した情報



生徒によって「学びの深度」は様々です。すべての生徒が一斉に同じゴールに到達することを目指すのではなく、それぞれの生徒が今のステージから一歩でも深まる授業を日々展開していくことを目指しています。教師が、「生徒の思考の現在地を見極め、次に必要なツールや問いをそっと置く伴走者」となれるよう、研鑽を積んでいきます。

教科会議について

前号でも掲載した通り、本年度から教科会議を月に1回開いています。右の表は、今年度の教科会議の年間計画です。今後、研究の進捗状況に応じて各月の議題が変更することもあるかと思いますが、計画的に教科会議を開いていく予定です。

◆5月:思考ツールの「型」選び

○教科ごとの特性に合わせた代表的なツールの分類

教科区分	代表的な思考ツール	活用のねらい
言語系 (国・英)	ピラミッド ステップ Yチャート	意見の集約 構成 書き分け
探求系 (社・理)	氷山 バタフライ マトリックス	背景の考察 評価 比較分類
実技系 (美・体・技)	イメージマップ くらげ PMI	アイデア出し 作戦 実践教科

※例にあげた教科以外からも様々な活用方法の提案がありました。

令和8年度教科会議・年間計画

	議 題
4月	年間計画・評価基準の確定
5月	○思考ツールの「型」選び ・使いやすいツールの選定。
6月	○「めあて」の検討 ・生徒の興味・関心を引きだす提示の仕方。 ・「めあて」に思考スキルを組み込む or その日の授業(単元)で使用する思考スキルを効果的に示す方法を検討。
7月	○1学期の実践事例発表 ・思考ツールを使ってみた生徒の反応を共有。 生徒の「つまづき」や成長を拾う。
8月	○「問い」の検討 ・単元計画の中で、どこに「協働の問い」を置か。1コマの授業デザインを共有。
9月	
10月	○生徒の変容の分析 ・授業の中で、生徒が「学びを感じた」瞬間はいつか?振り返りの記述などから分析。
11月	○交流授業の検討 ・公開授業に向けての授業のブラッシュアップ
12月	○指導案の最終調整
1月	○直前準備・公開授業
2月	○研究のまとめ
3月	○次年度への継承

◆6月:「めあて」の検討

○生徒の興味・関心を引きだす提示の仕方

○「めあて」に思考スキルを組み込むなど、その日の授業で使用する思考スキルを効果的に示す方法

授業が変わる! 「めあて」と「思考スキル」提示のアイデア集

生徒の興味を引き出し、思考力を育むための「めあて」と「思考スキル」の具体的な提示方法

生徒の興味・関心を引く「めあて」の工夫

視覚的・体験的なアプローチで導入する
単元に関連する動画の視聴やクイズを通じて、学習上の好奇心を利続します。

「できそうだ」と思われる設定
分かりやすく、簡単な言葉を選ぶ。達成感を得やすい目標を設定します。

「自分事」として捉えさせる関連付け
身近な出来事や新時の学習内容と紹介し、学びの意味を明確にします。

「思考スキル」を効果的に提示・定着させる

思考の可視化と常時掲示
スライドやカードを用いて、授業中いつでもスキルを確認できる環境を整えます。

スキルからツールへ導く段階的提示
分類する → 思考ツール

スキルからツールへ導く段階的提示
「分ける」等のスキルを示した後、ベン図などの適切な思考ツールを選択させます。

振り返りシートでの自分評価
授業の終わりに、自分が活用できた思考スキルを自由選択・確認させます。

教科ごとの具体的な提示手法の例

理科
ステップカード形式で、思考スキルと最適なツールを段階的に提示する

国語
単元に関連する動画、視覚後「めあて」を提示し、スキルカードを活用する

社会
1時間の授業中、スライドでめあてと思考スキルを常に表示しておく